

種子島における甘蔗作が農家経済上に占める位置

松下 哲 朗

九州農業試験場

MATSUSHITA, T. The Position of Cane-planting on Farm
Economy in the Tanegashima Island

は し が き

種子島は昨年末復帰した奄美大島と共に甘蔗栽培の適地であり熊本支庁の統計によれば昭和27~28年期中総農家戸数の90%、畑面積の約20%が甘蔗栽培によつて占められ黒糖の生産量は約1千万斤、販売金額約3億円を挙げ甘蔗は本島農業の根幹を為し農家経済上は勿論、輪作上からも特殊立地条件下にある本地方に最も適した不可欠の重要作物である。故に過去において多くの調査が試みられたが農家が諸課税の基礎資料となることを恐れ真実の報告はなされず、著しく歪曲されたものが多く営農上のこれが位置に関しても明確な資料は皆無であつた。随つて今迄執られてきた経済指導等の諸施策は真の実態に立脚したものではなく、現実からは可成り相違した施策に終始していた感が深かつたので斯る弊害を除き最も正確な実態を掴み

今後の施策及び技術改善の資料とする為、信用度の高い大、中、小の農家を選び甘蔗作の農家経済上に占める位置について調査を行つたので報告する。なお調査を受けけた農家及び終始御指導を仰いだ当試験地主任中島技官並びに大内山技官に深く感謝する。

調査方法及び農家の概況

本調査は西之表町の一校区における昭和27~28年期中の甘蔗作農家を標本調査により聴取り調査したもので該部落は農家戸数213戸、一戸当平均耕作面積は田が2反、畑が8反で本島全体の平均に比し田は稍低く畑は約2倍の耕作面積を有し調査農家の耕作面積も第1表の如く何れも畑作が主体をなしている。

調査成績及び考察

1. 作付面積比より見た甘蔗作

第1表 耕作面積及作付面積比

農家	耕作面積			作付作物別面積比 (%)									
	計	水田	畑	甘蔗	水稻	陸稻	麦	甘藷	落花生	蔬菜	烟草	其の他	計
1	23.4	9.4	14.0	10.4	24.5	0	13.0	13.0	10.4	1.3	0	27.4	100.0
2	26.2	5.2	21.0	13.5	12.8	2.4	17.2	27.0	8.9	3.6	0	14.6	100.0
3	19.3	4.3	15.0	23.0	13.4	0	12.4	17.1	14.2	1.5	0	13.4	100.0
4	17.9	3.9	14.0	10.8	14.0	3.6	16.2	19.8	16.2	1.8	0	17.6	100.0
5	11.0	0	11.0	17.4	0	12.4	24.8	23.6	11.2	3.1	0	7.5	100.0
6	9.8	2.6	7.2	10.0	17.4	2.0	16.8	23.5	10.0	1.4	0	18.9	100.0
7	6.8	1.8	5.0	17.3	15.5	2.6	12.9	20.7	3.5	3.5	8.6	15.4	100.0
8	5.4	1.4	4.0	15.9	15.9	5.6	13.6	22.7	3.5	3.5	0	19.3	100.0
9	4.5	0	4.5	39.0	0	0	21.9	32.8	0	4.7	0	1.6	100.0
10	4.6	0.8	3.8	28.4	9.9	0	22.2	13.6	12.3	3.7	0	9.9	100.0
11	4.5	0.7	3.8	12.9	8.2	7.1	25.9	23.5	11.8	2.3	0	8.3	100.0

第1表によれば甘蔗は作付延面積の約20%を占め甘藷に次ぐが一部には甘藷より多い農家もあり、この傾向は特に小農に明瞭に現われている。その外落花生も重要な作物であるが甘蔗甘藷に比し面積も少い。ま

た主食作物及び一部の甘藷と大部分の蔬菜が自家消費され他が換金作物となるのであるが烟草は栽培面積も極めて少くまた蔬菜の販売金額も微々たるもので結局農業収入の殆んどは甘蔗、甘藷、落花生に依存すること

になる。これ等三作物の生産物中販売される率は第2表の通りで甘蔗、落花生が90%以上販売され純換金作物

第2表 主作物の平均販賣率及平均販賣収益

作物	平均販賣率	左指数	平均販賣収益	左指数
甘蔗	90.4%	113.0	34,829 ^{II)}	378.5
落花生	92.3	115.4	9,767	106.1
甘蔗	80.0	100.0	9,203	103.0

物と言えるが甘蔗の販売率は約80%であり、甘蔗が家

第3表 農家収入及甘蔗、甘蔗の収入比

農家	農業収入	畜産収入	賃労働収入	其他	計	甘蔗収入	甘蔗収入	甘蔗収入
						農業収入	総収入	農業収入
						%	%	%
1	282,000 ^{II)}			2,000 ^{II)}	284,000 ^{II)}	42.6	42.3	17.0
2	262,000			1,500	263,500	49.6	49.3	23.6
3	402,000				402,000	79.6	79.6	7.4
4	254,265	200			254,465	39.6	39.6	29.5
5	219,000		10,000		229,000	54.8	52.4	25.1
6	89,200		2,000		91,200	62.8	61.4	18.2
7	143,950		10,000		153,950	45.0	42.1	12.6
8	104,655	53,000	5,000		162,655	65.9	42.4	26.4
9	121,500	17,700	35,000		175,200	88.9	61.6	11.1
10	102,000	3,000	15,000		120,000	75.5	64.2	14.7
11	51,000	25,500	2,800		80,300	47.1	29.9	23.5

第5表によれば経営規模の大きい農家の総収入は殆んどが農業収入で占められるが小農の農業収入は約60%で畜産、水産、賃労働にその不足を仰いでいる。何れにしても生計の基調をなす現金収入は大部分を農業収入に依存しており、その中、大農50%、中農57%で小農は70%が甘蔗収入によつて占められ総収入より見た場合も農業以外の収入の比較的多い小農においてさえ約50%は甘蔗作によつて占められている状態で、僅か一作物のみでかかる大きな収入比を占める事は当地方における甘蔗作の重要性を如実に物語るものと言えよう。

4. 収入時期から見た甘蔗作

本地方の年間の主作物現金収入期は甘蔗による1月～3月と落花生、甘蔗による9～12月のみであるが落花生、甘蔗収入が生計費として支出され尽した頃甘蔗収入が残り之によつて諸課税及び次年度作付資金が賄われる特徴を持っている。かくして5月以降に収入源が杜絶し所謂夏枯れを呈するが、この期に備え黒糖を手持ちし少し量販する様な現物貯金の形態がとられるがこの保有期間は生産量の多い農家程長い。かくの

畜飼料のみでなく主食代用として自家消費される率の高い事を示しており、斯る点を考えれば農業収入の面からも甘蔗は寧ろ甘蔗より重要性が高い事が窺える。

2. 反当販賣収益より見た甘蔗作

上記三作物の販賣粗収入を作付面積で除した所謂反当販賣収益の平均を第2表に示したが甘蔗の収量が極めて低いのは前述の自家消費量が多くまた落花生は反収及び単価が低いためと解されるが甘蔗は前二作物の約3.6倍に達し極めて有利な換金作物である事が明瞭に示されている。

3. 農業収入より見た甘蔗作

如く甘蔗は収入の枯渇した時期に且長期にわたつて支出に備えられる点、他作物と異り収入の時期から見ても甘蔗は極めて重要な作物である事が言えるのではあるまいか。

結 語

かかる調査は農家の秘密主義の為、真実のはあくに種々の困難を伴うを常とするが、本調査にあつた農家が非常に協力的であつたため、農家収入の大半を甘蔗作に依存した販賣収益は他作物よりはるかに高く農業経済上不可欠、且極めて有利な換金作物である事を立証し得た。故に全農家の90%が蔗作農の如き本地方における農業政策樹立に際しては農業経済上からも甘蔗は最重要作物として考察されねばならない。さらに当試験地での新品種C P種の導入及び中島、大津抜官による製糖法並びに籠の改良、バガス利用による生産費節減等も普及しつつあり、本島糖業は更に飛躍し明るい将来が展げ行くものと思う。なお甘蔗の経済性に因しては生産費及び土地、労力の生産性等あらゆる角度から検討がなされねばならないがこれ等に関しては更に引続き調査する予定である。